

生活科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年
知識及び技能	○2年生と一緒に「学校たんけん」をし、学校の中の場所や人、部屋にある物や部屋の目的、場所ごとのマナーに気付くことができました。 ○季節によって生活の様子が変わることやその面白さ、自然の不思議さに気付くことができました。	○町には生活したり、働いていたりしている人々や様々な場所があることに気付くことができました。
思考力，判断力，表現力	○アサガオの栽培活動を行う中で、それらが育つ場所・変化や成長の様子に関心をもち、よりよい成長を願って世話の仕方を考えたり、工夫したりすることができました。 ○遊び場に行った経験やそこで遊んだことを振り返り、友達に紹介することができました。	○アオスジアゲハなどのチョウ全般、昆虫について図書資料を用いて調べました。調べたことをもとにポスターを作りました。 ○長さ、触った感じなど、観察する視点をもとに、ミニトマトの成長の様子を観察カードにまとめることができました。
学びに向かう力，人間性	○植物（アサガオなど）や昆虫（アオスジアゲハなど）に愛着をもって接するとともに、生命あるものとして継続的に世話をすることができました。	○自分で育てている野菜の成長を楽しみにしながら、継続的に世話をすることができました。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年
課題	○生き物・植物のお世話では、声かけをしないと進んでできない児童がいます。	○身の回りの生き物に関心をもち、積極的にかかわろうとする児童が多いが、声かけをしないと進んでできない児童がいます。
改善策	○2学期以降も、生き物・植物と関わる場面を設定し、命の大切さを実感できるようにします。 ○平和の森公園を使った活動を充実させることで、自然との関わりをもつ機会をつくります。 ○3学期には昔のおもちゃで遊ぶ授業を計画し、その中で児童一人ひとりの思いを実現していくようにしていきます。 ○同学年による活動だけでなく、異学年との交流を増やし、共に活動する楽しさが分かるような体験をさせて友だちのよさに気付けるようにしていきます。	○子ども達が十分に意欲をもって活動できるようゆったりと時間を取り、関心をさらに広げられるようにしていきます。 ○活動するときには、見る視点を定めるようにします。 ○自然の中での体験をさらに増やし、遊び方や楽しみ方の工夫について話し合い活動をさせたり、他者に五感を通して分かってもらえるように言葉や絵、体での表現を工夫させたりしていきます。 ○同学年による活動だけでなく、異学年との交流を増やし、共に活動する楽しさが分かるような体験をさせて友だちのよさに気付けるようにしていきます。 ○児童同士の交流を増やし、お互いによいと思ったところを発表し合い認め合う活動をします。
検証方法	○自分の思いや、それを実現させるための方法や工夫などを書いたカードをもとに、児童の学習の様子を見取ります。	○興味関心をもっているか児童の活動の様子を観察します。 ○生活科カードに記録する際にはm観察する視点を示し、考えたことや気付きを確認します。